

キューブジュニア合唱団結成 10 周年記念 ～第7回キューブ合唱団・ジュニア合唱団コンサート～



ジュニア合唱団結成10周年
キューブジュニア合唱団は、ホワイトキューブの開館から3年後の平成12年に結成。平成9年に結成されたキューブ合唱団（柿崎六郎団長）を指導した、故関屋晋さんの後押しがありスタートしました。

現在の団員は、市内の小学2年から高校3年までの男女計14人。仙台オペラ協会員でもあるソプラノ歌手の中村優子さんや、キューブ合唱団発足当初からピアノ伴奏を務める吉村昌美さんの指導を受け、月2回、楽しく練習を行っています。

また、歌が心の支えや励みになってほしいと、刈田病院や介護施設でコンサートをを行うなど、さまざまな歴史を刻んできました。

11月28日、ホワイトキューブで開催した結成10周年コンサートは、両合唱団の第7回コンサートと兼ねて開催。第1ステージは、キューブ合唱団が「アメーzingグレース」などを披露し、第2ステージは、ジュニア合唱団がミュージカル「サウンドオブミュージック」より、「ドレミの歌」などを披露しました。

団員の歌声は、ホールや観客の心に響き渡り、観客から惜しめない拍手が送られました。

Interview ジュニア合唱団指揮者とただ一人の男子団員に話を聞きました。



コンサートのために練習を重ね、合唱の楽しさを伝えることができました。これからも、たくさんの人にとって歌が心の支えや励みになってほしいと思います。

●中村 優子さん（仙台市）



コンサートは、緊張して少し足が震えましたが、一生懸命歌いました。男子はほくだけなので、一緒に楽しみながら歌ってくれる仲間が増えるとうれしいです。

●高橋 稜さん（東大畑）

- 月謝 2,000円
- 問い合わせ先 ホワイトキューブ 22-11290
- 練習日 第2・第4土曜日 10時30分～12時30分
- ※都合により変更になる場合があります。
- 団員募集

市道「小久保平原線」

～3年4カ月ぶりに復旧 平成22年12月1日開通式～



▲道路ごと30m滑落（小原追久保）

**台風4号による豪雨で
大規模な土砂崩れが発生**

平成19年7月15日、台風4号による豪雨で、小原追久保地区で幅200m、長さ300m、深さ30mにわたって地滑りが発生。東京ドームの容積に相当する約120万立方メートルの土砂が崩れ、道路が分断されました。また、福岡蔵本沼地区でも約50mにわたって土砂が崩れ、小原小久保平と蝦夷倉地区、福岡蔵本沼地区の14世帯35人が、道路の寸断や電話の不通で孤立しました。

このため市は、「白石市災害対策本部」を設置。仮設道路を造り孤立を解消するとともに、県防災ヘリによる支援活動を実施しました。さらに県は、地滑り対策を行わなければ道路を造ることはできないと、国の研究

機関の指導を受け、災害から49日後の8月31日、約14億5,600万円かけて、崩れ落ちた土砂の排出や地下水の低下を図るための井戸を掘る地滑り対策工事などに着手。その上で市は、約9,900万円を投じて市道災害復旧工事に着手しました。復旧した市道は幅7m、延長460m。2年間は様子を見守るため、県の監視システムと連動し、土地に移動があった場合や大雨の場合は、すぐに通行止めができるよう監視を続けることにしました。

**「小久保平原線」復旧！
3年4カ月ぶりの開通を祝う**

平成22年12月1日、災害復旧工事が完了し、災害から3年4カ月ぶりに開通しました。約150人が出席した開通式で、風間市長は、地域の皆さんにご不便を掛けましたことや県の地滑り対策工事に対する感謝を述べるとともに、「今後も土地の変動の監視を続け、安全な道路の確保に努め、この道路が末永く多くの皆さんに愛され、小原地区、そして、本市の発展につながることを期待します」とあいさつしました。テープカットの後、出席者は道路を歩いたり、車で通行したりして、待ちに待った開通を祝いました。

Interview 開通式に出席した小久保平自治会長と川原子自治会長に話を聞きました。



地滑りの現場を見た時は、自然災害の恐ろしさを痛感しました。そんな時たくさんの方が励ましの言葉を掛けてくれたことを今でも覚えています。開通を待ちわびていました。これでやっと災害前の生活に戻れます。地域の活気を取り戻せるよう、楽しみながら過ごしていきたいです。

●石塚佳一郎さん（小久保平）



あれから3年4カ月余り、1,112日ぶりに開通し、通行できるようになりました。特に小久保平、蝦夷倉地区の皆さんは、私たちに想像もできない大変なご苦労があったことと思います。

この開通によって、地域が活性化することを期待しています。

●高橋 朝男さん（川原子）